

- ① 上総掘りで観測井ができるまで..... 2
- ② 人工ダイヤモンド③..... 8
- ③ G.S.式ポータブルマグネタイトアナライザー.....14
- ④ 古生態学の立場から見た貝化石ならびに古地理の推定.....16
- ⑤ マラヤ地質調査所.....20
- ⑥ 各部課を尋ねて 12.....25

北アルプスの立山温泉を中心とする地域は 噴気孔や温泉があり かつてさかんに噴火し そのために その後爆裂火口が陥没してできたカルデラと考えられている おもに安山岩質岩からなるその噴出物は 主として西方の阿弥陀ヶ原に 一部は東方に流出して五色ヶ原を作っている 立山連峰から南に緩走すると ザラザラとした火口壁の急崖と そこに描かれたほぼ水平な溶岩の成層面をみることができる 遠景は大鷲岳と五色ヶ原の一部である (行)

コニカ ヘキサー 50mm F3.5 ネオパンSS f11
250分の1秒 T-1 D-76 フジプロF-2 コレクター

上総掘りで観測井ができるまで

みなさん

すでにご存知のように 東京の東部から北部にかけては ひどい地盤沈下が起っています。沈下地帯は 260 km² 以上にもおよんでいて たぶん世界中でも人口密度の高いところで こんなに広く地盤が沈下しているところは例がないでしょう。

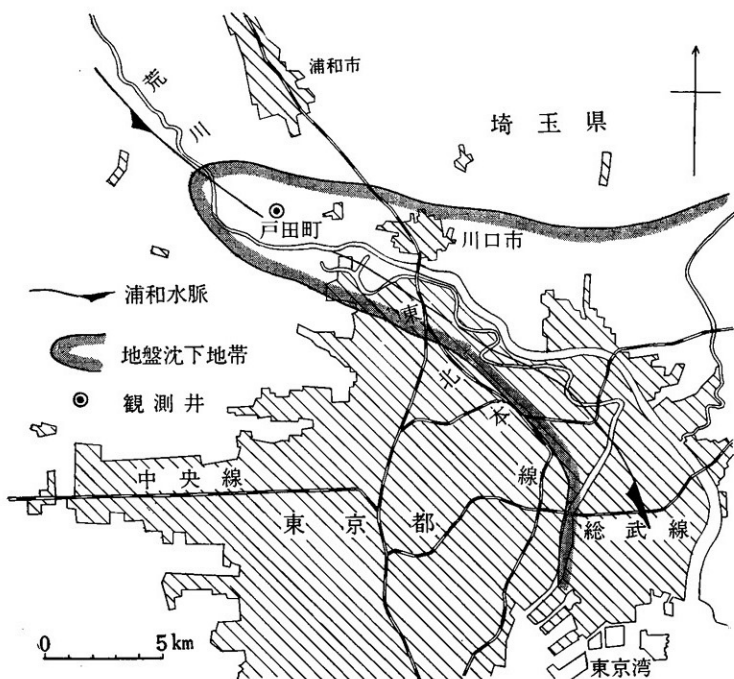
埼玉県の南部一帯もその一部に入っています。戸田・川口・蕨・草加・八潮・三郷などの市町村 約35万ほどの埼玉県の人口が この沈下地帯に深いつながりをもっています。

ところで 東京都側では10年も前から地盤沈下についてのいろいろの観測を行っており すでに年々の沈下

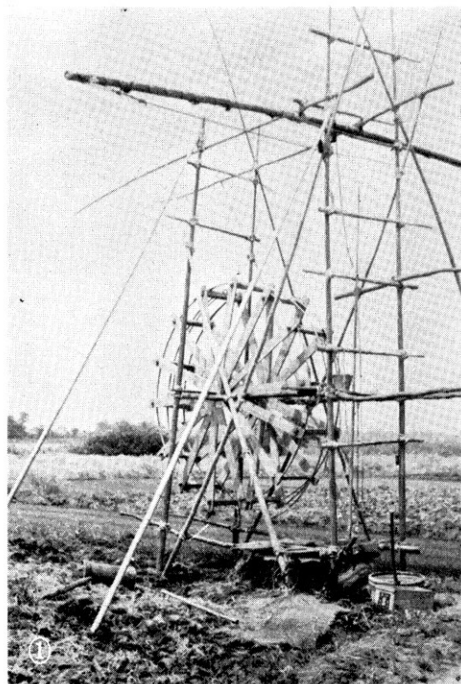
量が毎年5月には公表され 積極的対策は乏しいにせよ 都民はその沈下の状況を知ることができます。

ところが 荒川をへだてた埼玉県側はほんの1~2年前まで 沈下ということにほとんど無関心でいたのです むろんもっとずっと前から沈下は始まっていたのですが 水をかぶったりする危険がまだなかったので 県でも市でも真けんにとりあげていくというほどにいたっていませんでした。

しかし 河川を測量している人たちは 地形図の基準点に結びつけようとしても どうしても50cmくらい食い違うので 地盤沈下が起っていることを自分たちだけで知っていました。これを広く住民に そして県の政治の上にPRしていかねばならないのですが そのた



第1図 地盤沈下地帯と観測井の位置



① いわゆる一般の上総掘り「上総掘りのライト級」(常総台地所見)